

越後吉川二にあり、盛大にやったれ祭り 稲穂竿灯とトキめき国体の炬火で見事な光の風景

たいしたものです。わがふるさとの人たちの力はすごい。第11回越後よしかわやつたれ祭りは今回も大成功でした。心配した雨雲もどこかへ行き、会場である原之町商店街には山から里から祭り好きの人たちがどっと繰り出しました。人口5000人ちよつとの町で千数百人の人たちが集まりました。やつたれ祭り史上最大の人出となったのではないのでしょうか。

この祭りのシンボルとなっているのは稲穂竿灯です。透明のペットボトルとロウソクと竹竿を使って稲穂を表現したこの竿灯、今年の実行委員会のメンバーのみなさんだけでなく、吉川小学校の児童なども参加して400本作製しました。商店街の電灯が消された時、稲穂竿灯の2000個のロウソクが見事な光の風景をつくりだしました。

今年は冷夏で、戦後もっとも日照が少ないと

言われています。豊作を祈念したこの祭りを契機に、ギラギラした真夏の太陽が稲に、野菜に、果樹にと降り注いでほしいものです。

祭りの盛り上がりは自分たちが住んでいるふるさとを良くしたいという思いが束ねられるかどうかで決まります。2か月も前からコツコツと稲穂竿灯づくりをしてきた人たちがいて、それを物心両面で支えた人たちがいました。こうした頑張りがあるから、全国で唯一の稲穂竿灯祭りができます。そして、今年も全町内会から家内安全と豊作祈願の火が集められました。秋のトキめき新潟国体の炬火も祭りの会場で灯されました。子どもたちの神輿や竿灯神輿はまた増えました。毎回増え続けています。さらに、河沢の江村康成さんがチェンソーカービングで参加してくれました。チェンソーで丸太を彫刻し、作られた熊とフクロウは中央ステージ前に



いまこそ日本共産党の出番

ジャスコ近くの「かに池」公園前で5日、日本共産党が街頭演説会を開催。市議団も全員そろって宣伝しました。

橋本正幸党上越地区農民部長は「日米自由貿易協定推進では日本農業は滅ぶ。日本共産党の農業プランで自給率向上を」と訴えました。



飾られ、これも盛り上げに貢献しました。この祭りでも再認識したことがあります。元気のいい祭りには素敵な音があり、生き生きとした人間の声があります。ドンドンガンドン、ドンドンガドン。会場では太鼓の音に参加者の心を揺さぶり続けました。また、未来に生きる子どもたちの歓声や若者たちの威勢のいい声に参加者の心に響きました。

シリーズ 上越市内の橋

第5回 平和橋



市内に平和橋（へいわばし）という名前の橋があることを知っていますか。吉川区内、市道下町小苗

代線の二級河川吉川にかかった橋です。晴れた日にはここから信越国境の山やまを望むことができます。橋長は20メートルほどです。1989年10月竣工。

この橋の魅力は何といても名前です。平和への思いが込められた橋を一度渡ってみてください。できれば8月に…。

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
Tel 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

NO 1409
2009.8.9

市政レポート
上越市